

# 長井崎中学校区小中一貫校化 推進委員会たより No.6

平成31年1月 発行  
沼津市教育委員会事務局 教育企画課  
所在地：沼津市御幸町 16-1  
電話：055-934-4821  
FAX：055-931-8977  
E-mail:kyouiku-ki@city.numazu.lg.jp

日頃より本市の教育行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
今号では、小中学生及び未就学児童の保護者を対象に実施した統合案に対する意識調査の結果と、1月10日に開催した第4回推進委員会での話し合いの様子を中心にお知らせします。



## 意識調査へのご協力ありがとうございました。

統合方針の決定に向けて、11月下旬から12月上旬にかけ、長井崎中学校区にお住まいの小中学生及び未就学児童の保護者を対象に、「小中一貫校化（統合）に関する保護者意識調査」を実施しました。この調査は、「長井崎中学校を小中一貫校化する統合案」と「静浦小中一貫学校で統合する案」の2つの案のどちらを希望するかという二者択一の調査ではなく、それぞれの統合案について、期待することと不安や心配なことを考えていただくことを目的に行った記述式によるものです。

回答を整理すると次の表のようになります。

	長井崎中学校を小中一貫校化する案	静浦小中一貫学校で統合する案
期待すること	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域に学校が残る</li><li>・地域に即した学習や行事が期待できる</li><li>・現在の課題である複式学級の解消や少人数学級の緩和が早期に実現できる</li><li>・環境の変化が少なくスムーズな統合ができる</li><li>・高台にあるため津波などの災害に強いなど</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・人数が増え複式学級は発生しない</li><li>・多様な考えに触れる機会や少人数ではできない活動が可能となる</li><li>・施設や設備が新しく、余裕がある</li><li>・再度統合する可能性があるのであれば最初から静浦の方がよい</li><li>・部活動の充実(種類・人数・日々の活動等)など</li></ul>
心配や不安	<ul style="list-style-type: none"><li>・人数はそれほど多くならず、いずれ今と同じような状況(少人数・複式)になる</li><li>・部活動の沈滞(存続・選択肢・日々の活動等)</li><li>・登下校の不安(防犯・防災・坂道)</li><li>・いずれ静浦に統合されるなら、増築や改修、エアコン設置等は無駄でないかなど</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・通学に対する心配(距離・防災・援助)</li><li>・地震や津波発生時における不安</li><li>・地域から学校がなくなることが、地域の衰退、過疎化、人口減少につながる</li><li>・静浦地区との文化や価値観、地域性などの相違など</li></ul>

[有効回答率 未就学児保護者：52.8% 小中学校保護者：81.3%]

全体的には長井崎での統合を望む声が多く、特に西浦地区ではその傾向が強く表れていました。一方、静浦での統合を望む声も一定数あることが分かりました。特に、未就学児保護者では、静浦での統合を望む声が増える傾向にあることも分かりました。

また、長井崎中学校区の小中一貫校化（統合）に関する自由記述欄には、次のような声が寄せられました。

#### 一貫校化に関する意見・要望・質問など

- ・子どものことを考えると、複式学級や極端に人数が少ない状況は避けるべき
- ・地域から学校がなくなることや通学環境の悪化などが、若い世代が戻ってこない理由になる
- ・児童生徒数の実態や適正化の動きが、転出や人口流出、過疎化に拍車を掛ける
- ・市外（伊豆の国市）への通学や、内浦地区は静浦の選択を可能にできないか
- ・スクールバスや通学援助の拡充を期待する
- ・制服、通学かばん、行事（卒業式など）はどうなるのか
- ・放課後児童クラブや保育所はどうなるのか
- ・跡地活用、人口対策等の施策も同時に推進してほしい
- ・統合方針決定にあたり、地域や子どもたちの意見を取り入れてほしい
- ・今回の話を受け、他市町への転出を検討している

### 統合方針について協議を深め、まとめをしました。

1月10日（木）に開催した第4回推進委員会では、これまでの推進委員会での協議や登下校体験、保護者説明会、保護者意識調査の結果等を受け、統合方針について話し合いました。



#### 【様々な立場の代表として出席している各委員から出された意見】

- ・西浦地区では、静浦での統合を望む声はほとんどない。
- ・内浦地区では、静浦での統合を望む声も聞いている。
- ・静浦での再統合は望まない。地域に学校は残すべき。
- ・近い将来、再統合の可能性があることが示されているので、静浦での統合を望む声上がるのではないか。
- ・地域の発展を考えると、地域に学校を残す方向を探ることは大事なことである。
- ・地域の子は地域で育てるという立場から、自治会としては地域に学校を残してほしい。
- ・大人の都合や視点ではなく教育環境としてどうかという視点で考えていくとよい。
- ・子どものストレスや教職員の負担という点で、複式学級は一刻も早く解消したい。
- ・多様な考えがある中から一つに決めていくときは、かなわなかった側の同意を民主的、平和的に得ていくことが大切であり、今回のケースでは、地域の自治の力で行うべきである。
- ・統合に伴うバスの通学援助は、半額ではなく全額援助にしてほしい。
- ・小規模校のメリットもあるが、9年間ずっと同じ人間関係というのも気になる。
- ・内浦と西浦は市内でも特別な地域であり、学校と家庭、地域が連携しながら地域に根ざしたきめ細かな教育を進めている。静浦は地域の拠点になりうるか。複式や少人数の課題は工夫でどうにかできる。防災の拠点としても地域に学校は残すべきである。

#### 推進委員会としてのまとめ

長井崎中を小中一貫校化し、地域の特殊性を考え存続させていかなければならない。

### 今年度中の統合方針決定を目指しています。

教育委員会では、これまでの地区推進委員会での協議や児童生徒数の推移、学校からの聞き取り、保護者や地域の皆様の声、市役所内の関係する部署やバス会社との協議内容、各方面への影響、費用対効果、施設設備を含めた様々な条件などを踏まえ、沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針に沿って、統合方針の検討を進め、年度内に決定していく予定です。

\*これまでの取り組みは、沼津市ホームページに掲載しております。→

